



景観を重視した観光振興について語る石本東生静岡文化芸術大教授＝浜松市中央区で

静岡文化芸術大と県立大新課程 観光教育の意義を説く

静岡文化芸術大（浜松市中区）と県立大（静岡市駿河区）が二〇一九年度からスタートした新カリキュラム「観光教育」の交流イベントが十二日、文化芸術大で

あり、両大の担当教員が学問に観光分野を取り入れたカリキュラムの意義を説明した。文化芸術大の新コース「文明観光学」は、文明という

視点から地域の観光資源を見いだしていく。石本東生教授は、石造りの伝統的な建築を増やし、ホテル業の活性化に成功したギリシャの事例を紹介。「観光において景観は重要な要素。それを踏まえ、歴史や伝統の資源化を考えていく」と授業の方針を語った。

県立大の経営情報学部

は、マネジメントに観光を絡めた授業を展開する。北上真一特任教授は「日本の観光産業は伸び代がある。データを読み解き、さらなる発展を目指したい」と話した。文化芸術大の学生八十人と県内の教育関係者ら計約百四十人が聴講し、メモを取ったり疑問点を投げかけた。

（大城愛）

2019.6.13

中日新聞（朝刊）P.14